

都市に  
森をつくる

# Ⅲ

木造都市を目指して

新建築  
2022年2月別冊

# CREATING ま ち 都市に森をつくる III

## 木造都市を目指して

好評発売中！

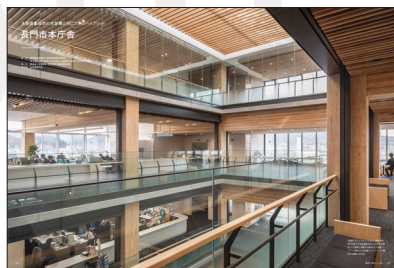
本号は『都市に森をつくる KES構法の大規模木造建築』（新建築2011年12月別冊）、『都市に森をつくるII 木造建築の新しいかたち』（新建築2016年3月別冊）に続き、3冊目にあたる株式会社シェルターの特集号です。

同社が携った建築作品を以下の4つのテーマに分類して紹介します。

1章「木造都市への挑戦」では近年増加する高層建築への木造利用の実践や技術について、2章「デジタル技術で変わる木デザイン」ではデジタル技術の活用で広がった木造のデザインについて、3章「木架構による空間デザイン」では小径木の組み合わせやエンジニアリングウッドの利用等により木の構造がそのまま空間デザインとなっている事例を、4章「木を中心としたまちづくり」では木を使うことでみんなの居場所をつくり地域へ貢献する事例を、それぞれ紹介します。アプローチはそれぞれのプロジェクトで異なりますが、いずれも木を活用して新しい構造形式やデザイン、施工方法等さまざまなことにチャレンジしています。

また、巻頭対談には伊東豊雄さん、大西麻貴さんに登場いただき、その他、建築家や構造家に多角的にお話を伺いました。

木材の利用がどんどん進む中で、木の美しさや木を利用することの意義を通して、これからの建築・都市を考えるきっかけとなる1冊です。



1章「長門市本庁舎」。大断面集成材の木架構と鉄筋コンクリート造のコアによるハイブリッド構造の5階建て市庁舎。その他、純木造での高層建築への取り組みも紹介。  
座談会：西沢大良氏×堀池隆弥氏（大林組）×安達広幸氏（シェルター）



2章「八代市民俗伝統芸能伝承館（お祭りでんでん館）」。  
地元の流通材を組み合わせでつくられた曲面の屋根が市民の居場所やお祭りの鉢の組み立て場所となります。  
対談：平田晃久氏×藤本壮介氏



3章「リゾナーレ那須 POKO POKO」。3つ連なる円錐形の屋根が架かるホテルのアクティビティの拠点施設で、丸太状の登り梁が特徴。  
座談会：森部康司氏×坪井宏嗣氏×鈴木芳典氏×平岩良之氏×金田泰裕氏



4章「山形市南部児童遊戯施設」。山形市のPFI事業で、2022年4月オープン予定のすべての子どもたちのための遊び場。  
座談会①：百田有希氏ら「山形市南部児童遊戯施設」プロジェクトチームメンバー  
座談会②：長谷川豪氏×増田信吾氏×大坪克巨氏

A4 変型判 / 216 頁

定価：2,750 円 [本体価格：2,500 円]

新建築ショップ、amazon、全国の書店でお買い求めいただけます。

新建築ショップ：<https://japan-architect.co.jp/>

※ 新建築ショップは右のQRコードからもアクセスできます。

